

関係人口を拡大し「未来に引き継げる徳島」を実現。

●「関係人口」とは 地域や地域の人々と多様に関わる人々のこと。
関係人口が増えることで、地域経済の活性化やイノベーション、新たな価値の創造、将来的な移住者の増加などが期待できます。

九州・とくしま ゆかりの集い

徳島・福岡線就航30周年を記念して
今年9月29日、福岡県で開催されました。



明治から昭和初期、徳島から九州へ渡った九州出漁団

九州・福岡には、明治中期から昭和初期にかけて、日和佐、由岐、椿泊の漁業者が九州の海で遠洋漁業を行い、定住された歴史があります。この九州出漁団がルーツの方々をはじめ、本県ゆかりの方々に多数ご参加いただきました。



九州出漁団の子孫にあたる方々が福岡で活躍されています。



福岡博多にある九州出漁団のスクリーアのモニュメント。

新しいご縁を次の世代に

福岡徳島県人会 会長
有限会社パイルコーポレーション 代表取締役

よしづみ こうじ
吉積 浩司さん



動画はこちら

今回、このような機会を設けていただき、心から感謝しています。「福岡に徳島の県人会があることを知らなかった」という方がいらっしゃる中、こうした交流の機会を通じて親睦を深め、新たな関係を築いていくことはとても大切です。私自身も、この集いで生まれた新しいご縁を次の世代につなげていきたいと思っています。

ふるさと徳島には、とても価値のある農産物がたくさんあります。たとえば徳島で1キロ2000円という価格で売られている“すだち”は、福岡では1万円を超えていたりする。しかも、それを買って帰るのは外国人です。まずは自分たちの近くにあるモノの価値を見つめ直すことで、可能性は拓けると思います。福岡県人会には若手の方もいらっしゃるの、これまでの知識や経験を少しでも伝えていきたいです。

県人会の絆をさらに深めながら

全国徳島県人会連合会 会長
奈良徳島県人会 会長

ほん で りょういち
本出 良一さん



徳島は自然が豊かで食べ物もおいしく、訪れた人の満足度がとても高い県だという印象を持っています。阿波踊りや人形浄瑠璃、藍染めなど、世界に誇れる伝統文化もたくさんあります。まずは、このような「宝の山」がふるさとにあることを県民一人ひとりが再認識し、地元と深くつながる人や企業と一しょに「徳島ファンクラブ」をつくれれば、観光客や移住者も増えていくのではないのでしょうか。

全国には北海道から沖縄まで25、そして海外にも11の徳島県人会があります。ふるさとと深くつながり、「関係人口」のネットワークをさらに強め、ともに力を合わせることで全国そして世界に徳島の魅力を発信していきたいです。

動画はこちら



奈良県人会は奈良東大寺での阿波人形浄瑠璃公演の活動を行っています。

東京徳島県人会 県人の集い

今年10月6日、東京都で開催されました。



著名人も参加し、都市部の徳島ネットワークをさらに深化

徳島出身の方々によって組織された「東京徳島県人会」。徳島との絆を深めるため、「県人のつどい」が開催されました。柴門ふみさん(漫画家)や村田諒太さん(元プロボクサー)などの著名人をはじめ過去30年間で最高の350人にご参加いただきました。



徳島出身の県外在住大学生も多数参加。



徳島県出身の漫画家柴門ふみさんも初めて参加されました。

動画はこちら

世界を見据えた発展に期待

東京徳島県人会 会長
株式会社日立製作所 取締役会長 代表執行役

ひがしはら としあき
東原 敏昭さん



動画はこちら

生まれてから22年間という長い年月を、徳島で過ごしました。お遍路文化が根付いた徳島は、人が優しく、共感力に満ちていることが魅力だと思います。現在、私は東京を拠点にグローバルな仕事していますが、ふるさとで育まれた「相手に対する思いやり」がすべての仕事の基盤となっています。

東京から見ても徳島には魅力的な観光資源や農産物が多くあり、ベンチャー企業にとっても大きな可能性を秘めた県だと感じます。今後、さらなるビジネスの拡大や、観光客の増加などを目指す上で大切になるのが、グローバルを意識した取り組みではないでしょうか。観光では世界中から人を呼び込み、農産物を世界の市場に届け、国際社会を意識したベンチャーの育成を行う。そうすることで、徳島が「世界の中での徳島」として発展していくことを期待しています。

「徳島が好き」を広げたい

東京徳島県人会 副会長
日本生命保険相互会社 代表取締役社長

しみず ひろし
清水 博さん



動画はこちら

鳴門市で生まれ、中学校を卒業後に徳島市の城南高校に入学するなど、18年間という長い年月を徳島で過ごしました。大学以降はずっと徳島を離れていますが、ふるさとへの思いは今も薄れることはありません。会社では、地域振興を一つのテーマとしながら各都道府県とさまざまな取り組みを行っています。私が生まれ育った徳島県とも協定を結び、糖尿病の患者数を下げるための活動をスタートさせています。

最近の日本ではインバウンド需要が高まっていますが、東京に住む県人会のメンバーが力を合わせることで、徳島の活性化にも貢献できると思っています。そのために必要になるのが、徳島出身の私たちが今まで以上に徳島を知り、好きになることです。今後も徳島県民としての誇りやふるさとの魅力を、一人でも多くの方に伝えられるよう頑張ります。

徳島県ふるさとワーキングホリデー 徳島の魅力をまるごと体験！

参加者
募集中

県では、徳島県内に1カ月程度滞在し、農業や観光業、宿泊業などの仕事を体験する「徳島県ふるさとワーキングホリデー」の参加者を募集中。地元企業で働き収入を得ながら、地域住民との交流イベントや学びの場に参加することで、徳島の魅力にふれ、本県と深い関わりを持つ「関係人口」を増やすことを目的としています。県外在住の18歳以上であれば、学生・社会人を問わず参加することができます。

詳しくは
こちら



徳島大学公式ファンクラブ 学部を超えた交流機会を創出！

徳島大学では「徳島大学公式ファンクラブ(仮称)」を開設！徳島大学に興味・関心がある方やステークホルダー、卒業生や修了生など幅広い方が参加対象となっており、学部・学科や世代、属性を超えた交流機会の創出を目指しています。



徳島大学

海外で活躍する徳島の若者！若者同士の交流も深まっています



タイ最大の日本イベントで、徳島の大学生、高校生が阿波おどりを披露しました。



ドイツのニーダーザクセン州で、徳島の中学生、高校生がカヌー交流を行いました。



ふるさと発見！あわっ子文化大使通信

あわ文化を次の世代に伝承し、徳島の魅力を県内外に発信する「あわっ子文化大使」のレポートです。



ふるさとの宝物

●あわっ子文化大使リポーター
なかがわ ちさこ
徳島市北井上中学校 2年 中川 智紗子 さん

私のふるさと北井上には、「人形のムラ(阿波木偶箱まわし伝承館・阿波木偶文化資料館)」があります。そこでは「箱まわし」をしていて、えびす様や大黒様、お福さんなどの人形を造ることを小さい子でも教わり体験することができます。



で心ない人から差別を受けて継承者が減っていったりしたそうです。そんなつらい歴史があったけれど、素晴らしい文化をまた次の世代へと繋いでいかねばならないという阿波木

偶箱まわし保存会の方々を中心とした強い思いから、この「人形のムラ」は開かれました。いつも過ごしていた当たり前にあった文化が、戦争や差別によって壊されかけたけれど、人々の努力で、伝承できたことを私はうれしく思います。みんなを元気にしてくれる北井上の文化「箱まわし」が次の世代へと受け継がれるよう、私もこの「ふるさとの宝物」を大切に伝承していきたいです。

●皆さんからのご意見・ご感想をお待ちしています。
県義務教育課 ☎088-621-3054 ☎088-621-2882



すじ青のりの牡蠣グラタン



生産量全国第1位のすじ青のり。吉野川河口の養殖風景は冬の風物詩です。豊潤な香りは和洋ジャンル問わず料理を引き立てます。

●レシピ提供
県とくしまブランド推進課

レシピは
こちら

●作り方

- ① 塩水で洗った牡蠣に小麦粉(分量外)を薄くまぶす。サラダ油を引いたフライパンで、スライスした玉ねぎを軽く炒め、牡蠣を加えてよく焼き、ふくらしたら取り出す。
- ② フライパンにバターを入れ、中火にかけ、泡立ってきたら小麦粉を一気に加え、手早く混ぜる。
- ③ 牛乳を数回に分けて加えながらしっかり混ぜる。塩こしょうとすじ青のりを味を調える。
- ④ 耐熱皿に③のソース、①の順に重ね、チーズ、パン粉を散らしたら、200℃に温めたオーブンで20分焼く。仕上げにすじ青のりを散らして完成！

●材料[2人分]

- 牡蠣 150g ●玉ねぎ 1/2個 ●ピザ用チーズ 適量
- パン粉 適量 ●バター 25g ●小麦粉 25g ●牛乳1カップ
- すじ青のり 適量 ●塩こしょう 適量



お知らせ

マイナ保険証をお持ちでない方も、
これまでどおりの医療を受けられます。

- 令和6年12月2日から、現行の健康保険証は新たに発行されなくなります。
- マイナ保険証への切り替えがまだお済みでない方も、申請不要で保険者から届けられる資格確認書で引き続き保険診療を受けられます。ご安心ください。

[問] マイナンバー総合フリーダイヤル ☎0120-95-0178
県情報政策課



便利で安全な
マイナ保険証の
利用をご検討
ください。

詳しくは
こちら